

Ⅳ 市民会館・公民館の状況

1. 市民会館・公民館施設概要

会館は多様な文化的活動に対応しつつ、教育機関としての機能も果たしていく施設として、昭和52年6月に開館した。

福生市民会館・公民館 福生市福生2455 電話 52-1711

敷地面積 4,937.07 m^2

建築延面積 6,771.25 m^2

鉄筋コンクリート 地下1階 地上3階建

職員 12人

また、武蔵野台地区に昭和54年5月、熊川地区に昭和55年5月、社会教育活動の拠点として、地域の文化活動、また学習活動の場としての公民館分館が開館した。

(1) 松林分館 福生市武蔵野台1-15-1 電話 52-3624

敷地面積 1,104.98 m^2

建築延面積 564.30 m^2

鉄筋コンクリート 地上2階建

職員 2人

(2) 白梅分館 福生市熊川559-1 電話 53-3454

敷地面積 2,158.03 m^2

建築延面積 570.59 m^2

鉄筋コンクリート 地上2階建

職員 2人

2. 市民会館・公民館の利用状況

施設名 月 別 区 分			62年 4			5			6			7			8			9			1 0			1 1			1 2			63年 1			2			3			合 計		
			有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総	有	減	総			
			料 回	免 回	数 回	料 回	免 回	数 回	料 回	免 回	数 回	料 回	免 回	数 回	料 回	免 回	数 回	料 回	免 回	数 回	料 回	免 回	数 回	料 回	免 回	数 回	料 回	免 回	数 回	料 回	免 回	数 回	料 回	免 回	数 回	料 回	免 回	数 回			
市 民 会 館	ホ ー ル	大 ホ ー ル	10		10	11		11	26		26	26		26	6		6	29		29	39		39	54		54	11		11	10		10	22		22	29		29	273		273
		小 ホ ー ル	29		29	25		25	22		22	42		42	19		19	24		24	23		23	36		36	14		14	12		12	20		20	23		23	289		289
		小 計	39		39	36		36	48		48	68		68	25		25	53		53	62		62	90		90	25		25	22		22	42		42	52		52	562		562
	集 会 室 等	リハーサル室	0	15	15	3	16	19	7	24	31	7	13	20	8	20	28	1	20	21	11	9	20	9	31	40	1	15	16	1	13	14	2	20	22	5	16	21	55	212	267
		第1集会室	9	22	31	4	23	27	3	31	34	11	27	38	7	20	27	7	28	35	3	35	38	8	33	41	3	22	25	7	25	32	7	25	32	12	28	40	81	319	400
		第2集会室	7	43	50	6	40	46	4	43	47	5	49	54	8	37	45	8	38	46	6	43	49	6	41	47	2	33	35	9	27	36	8	42	50	8	38	46	77	474	551
		第3集会室	15	31	46	4	32	36	9	35	44	2	46	48	11	32	43	3	46	49	3	50	53	4	54	58	2	32	34	2	30	32	5	48	53	14	36	50	74	472	546
		第4集会室	8	32	40	8	26	34	10	30	40	9	40	49	8	23	31	6	34	40	8	34	42	9	42	51	9	27	36	2	20	22	9	32	41	11	37	48	97	377	474
		第5集会室	7	36	43	6	37	43	6	39	45	4	43	47	9	31	40	5	39	44	10	42	52	5	46	51	4	30	34	2	21	23	3	36	39	8	33	41	69	433	502
		第6集会室	6	29	35	3	31	34	2	30	32	1	40	41	5	21	26	6	29	35	9	32	41	0	47	47	5	26	31	4	20	24	7	33	40	7	28	35	55	366	421
		第7集会室	6	27	33	3	29	32	2	26	28	0	38	38	5	21	26	6	29	35	9	33	42	0	47	47	5	26	31	4	19	23	5	33	38	7	28	35	52	356	408
		第8集会室	6	3	9	3	3	6	2	3	5	1	8	9	3	6	9	0	13	13	2	11	13	0	21	21	4	7	11	2	5	7	7	9	16	20	8	28	50	97	147
展 示 室		0	0	0	0	0	0	0	5	5	2	5	7	0	21	21	0	4	4	6	15	21	0	27	27	0	0	0	0	0	0	0	10	10	0	0	0	8	87	95	
小 計	64	238	302	40	237	277	45	266	311	42	309	351	64	232	296	42	280	322	67	304	371	41	389	430	35	218	253	33	180	213	53	288	341	92	252	344	618	3,193	3,811		
計		103	238	341	76	237	313	93	266	359	110	309	419	89	232	321	95	280	375	129	304	433	131	389	520	60	218	278	55	180	235	95	288	383	144	252	396	1,180	3,193	4,373	
公 民 館	調 理 室 美 術 室 音 楽 室 視 聴 覚 室 児 童 室 計	調 理 室	1	14	15	1	14	15	4	18	22	1	26	27	0	11	11	1	30	31	4	30	34	3	43	46	0	32	32	2	26	28	0	38	38	0	51	51	17	333	350
		美 術 室	0	9	9	1	10	11	1	18	19	1	27	28	0	3	3	1	21	22	1	33	34	1	27	28	0	14	14	0	7	7	0	22	22	0	28	28	6	219	225
		音 楽 室	1	19	20	0	25	25	0	36	36	0	34	34	0	40	40	0	27	27	1	46	47	1	37	38	2	29	31	0	22	22	1	29	30	0	26	26	6	370	376
		視 聴 覚 室	0	22	22	0	27	27	0	24	24	0	34	34	0	34	34	0	27	27	0	42	42	0	32	32	0	30	30	0	17	17	2	20	22	0	24	24	2	333	335
		児 童 室	1	8	9	2	15	17	0	28	28	0	34	34	0	12	12	0	26	26	2	17	19	2	31	33	1	24	25	0	23	23	0	31	31	0	36	36	8	285	293
		計	3	72	75	4	91	95	5	124	129	2	155	157	0	100	100	2	131	133	8	168	176	7	170	177	3	129	132	2	95	97	3	140	143	0	165	165	39	1,540	1,579
合 計		106	310	416	80	328	408	98	390	488	112	464	576	89	332	421	97	411	508	137	472	609	138	559	697	63	347	410	57	275	332	98	428	526	144	417	561	1,219	4,733	5,952	

松 林 会 館 利 用 状 況

月 区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
主 催 事 業	件 数	21	31	24	40	46	23	49	25	27	25	37	37	385
	人 数	387	1,513	445	573	613	360	3,483	349	401	347	505	488	9,464
住 民 の 社 会教育活動	件 数	127	114	114	127	83	98	111	97	107	84	116	115	1,293
	人 数	1,450	1,495	1,676	1,556	1,140	1,145	1,373	1,326	1,404	931	1,276	1,647	16,419
公 共 的 団 体	件 数	5	4	1	2	0	2	3	5	2	5	1	2	32
	人 数	138	112	40	23	0	60	211	290	60	175	5	35	1,149
政 治 宗 教 団 体	件 数	5	1	2	4	4	4	2	4	3	4	5	3	41
	人 数	310	80	160	320	340	320	160	320	240	320	400	240	3,210
企 業	件 数	0	0	2	0	0	1	1	1	2	0	0	5	12
	人 数	0	0	60	0	0	90	6	7	90	0	0	142	395
そ の 他	件 数	10	9	9	9	5	11	13	10	8	7	10	16	117
	人 数	192	145	212	145	73	256	301	361	107	171	261	350	2,574
計	件 数	168	159	152	182	138	139	179	142	149	125	169	178	1,880
	人 数	2,477	3,345	2,593	2,617	2,166	2,231	5,534	2,653	2,302	1,944	2,447	2,902	33,211

白 梅 会 館 利 用 状 況

月 区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
主 催 事 業	件 数	4	19	12	27	16	16	24	17	12	4	7	11	169
	人 数	51	999	223	505	305	320	429	414	336	70	160	232	4,044
住 民 の 社会教育活動	件 数	162	159	145	168	90	147	200	139	119	97	139	157	1,722
	人 数	2,307	2,040	2,368	2,408	1,361	2,135	2,783	2,040	1,920	1,660	2,153	2,404	25,579
公 共 的 団 体	件 数	2	2	6	6	0	0	3	4	2	1	0	1	27
	人 数	28	12	36	148	0	0	9	28	30	30	0	10	331
政治・宗教団体	件 数	2	0	0	2	1	0	1	0	2	2	0	0	10
	人 数	40	0	0	40	20	0	20	0	60	30	0	0	210
企 業	件 数	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	5
	人 数	20	0	0	0	0	20	10	0	20	20	0	0	90
そ の 他	件 数	3	1	0	3	0	1	1	2	2	1	5	2	21
	人 数	81	30	0	70	0	30	7	80	18	5	158	80	559
計	件 数	174	181	163	206	107	165	230	162	138	106	151	171	1,954
	人 数	2,527	3,081	2,627	3,171	1,686	2,505	3,258	2,562	2,384	1,815	2,471	2,726	30,813

3. 公民館運営審議会

公民館運営審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議する機関である。この制度は社会教育法上必置制となっており、当市の場合、任期2年、定数10名で構成されている。

本年度の審議内容は次のとおりである。

- | | | |
|-----|----------------------|-----|
| 第1回 | 昭和62年4月16日(木) | 公民館 |
| | ○昭和62年度公民館予算について | |
| | ○その他 | |
| 第2回 | 昭和62年5月28日(木) | 公民館 |
| | ○昭和62年度上半期主催事業について | |
| | ○その他 | |
| 第3回 | 昭和62年10月19日(月) | 公民館 |
| | ○昭和62年度下半期主催事業について | |
| | ○公民館十年誌について | |
| | ○視察について | |
| | ○その他 | |
| 第4回 | 昭和62年11月6日(金) | 公民館 |
| | ○視察について | |
| | ○その他 | |
| 第5回 | 昭和62年12月3日(木) | 公民館 |
| | ○茅ヶ崎市小和田公民館の運営内容について | |
| 第6回 | 昭和63年1月29日(金) | 公民館 |
| | ○昭和63年度公民館予算について | |
| | ○その他 | |
| 第7回 | 昭和63年2月11日(木) | 公民館 |
| | ○優良公民館受賞祝賀会について | |
| | ○その他 | |

4. 奨励・援助

(1) 人的援助

各団体、個人の相談に応じ、職員が必要な助言、指導、援助を行った。

分館を除き、公民館では、夜間における社会教育の活動が昼間より非常に多いことから、これら社会教育活動をする市民（団体）の相談にのり、必要な援助をするため、職員が1名残る体制をとっている。（午後5時から10時まで）

(2) 教材、教具等の利用

(3) 事務援助

印刷事務等

(4) 会場借上

大ホール 1回（市民音楽祭）

小ホール 2回（福生市民劇団バックス、福生市民コーラス）

社会教育備品貸出し状況

内訳	月	62年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	63年 1	2	3	計
利用団体		3	4	9	9	4	5	7	6	9		3	8	67
16ミリ映写機		1	3	6	10	3	2	4	5	5		2	4	45
8ミリ映写機														
8ミリカメラ														
スライド映写機							1	1						2
O H P				1						1				2
スクリーン		1	1	5	1	2		1	2	1			5	19
暗幕				1									2	3
ビデオセット			1	1	1		1			3		1		8
スポットライト						1	1	2		1		1	1	7

立川社会教育会館フィルム配送サービス取扱い

内訳	月	62年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	63年 1	2	3	計
利用団体		4	3	5	6	1	3	1	2	1	1	3	6	36
本数		6	5	20	15	5	11	2	7	5	2	6	18	102

5. 公民館主催事業

(1) 幼 児

保育室事業

幼児の成長、発達をはかり、子どもをあずけることを通して、母親が学習していく場として実施した。

期 間 昭和62年5月18日(月)～9月末日(前期)1コース全15回×4コース
午前10時～正午

昭和62年11月13日(金)～昭和63年3月末日(後期)

1コース全15回×2コース、1コース全9回×1コース 午前10時～正午

会 場 公民館、松林分館、白梅分館

参加者 前期(14人×1C+11人×2C+8人)×15回=660人

後期(15人×1C+14人×1C)×15回+8人×1C×9回=507人

内 容 幼児が集団の中で能動的にかかわれるようにする。幼児の自主性を育てる。

	実 施 コ ー ス	幼 児 数					延参加者数
		1 才	2 才	3 才	4 才	計	
前 期	公 民 館木曜コース	6 人	6 人	2 人	0 人	14 人	225 人
	〃 金曜コース	6 人	2 人	2 人	1 人	11 人	165 人
	松林分館月曜コース	3 人	4 人	1 人	0 人	8 人	120 人
	白梅分館木曜コース	2 人	4 人	5 人	0 人	11 人	165 人
後 期	公 民 館木曜コース	3 人	4 人	0 人	1 人	8 人	72 人
	〃 金曜コース	9 人	4 人	2 人	0 人	15 人	225 人
	松林分館水曜コース	10 人	2 人	1 人	1 人	14 人	210 人

総 括 前年度よりも今年度の方が、今年度でも後期の方が、保育室事業として充実していた。後期では運営会議のまとめをつくり、参加者全員に配布した。

(2) 少 年

合同キャンプ

三館合同でキャンプを実施することにより、幅広い子どもの交流を図り、豊かな人間関係を育む場として実施した。

期 間 昭和62年8月19日(水)～21日(金) 2泊3日

場 所 五日市町青少年旅行村

参加者 本館 子どもアウトドア教室 29人

松林 子ども教室 18人

サバイバル教室 5人

白梅 たんけん教室 14人

計 66人×3日=198人

	8・19	8・20	8・21
6:30～ 7:00	開 村 式 11:40	朝 の つ ど い	
7:00～ 9:30		朝 食	
9:30～12:00		選択プログラム ① 川で遊ぶ ② 山で遊ぶ ③ ものをつくる ④ 鐘乳洞めぐり (昼食含む)	清 掃 ・ 片 付
12:00～13:00		昼 食	昼 食
13:00～16:00	自由プログラム		閉 村 式 13:00
16:00～18:30	夕 食		
18:30～21:00	合同プログラム き も だ め し	合 同 プ ロ グ ラ ム キャンプファイヤー	
21:00～22:00	反 省 会		

講 師 各教室の実技指導者

総 括 今年で3回目を迎え、全体的にまとまりをみせてきた。選択プログラムも4コースと内容的にも充実してきたが、スケジュールに合ったプログラムづくりが今後の課題であろう。

子どもアウトドア教室

野外生活に必要な知識・技術を学びながら、子ども同士の仲間づくりを図る。

期 間 昭和62年6月6日(土)～8月26日(水) 午後2時～4時 全13回

会 場 公民館集会室及び野外

参加者 41人×13回＝533人

月・日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 6	オリエンテーション	教室の説明、自己紹介、ゲーム	担 当 職 員
13	草花たんけん	草花丘陵ハイキングで仲間づくり	
27	滝山たんけん	滝山ハイキングで仲間づくり	
7. 4	ウォークラリーに挑戦	ウォークラリーで市内を知る	久保山佳奈氏
11	カレーをつくろう	自分たちの力でカレーをつくってみる	井上 孝氏
18	キャンプ準備 I	アウトドアキャンプへ向けて班会議	
22	〃 II	〃	
27 28	アウトドアキャンプ	五日市町戸倉キャンプ場でキャンプ	沢村 雅人氏
8. 5	うどんづくりで反省会	うどんづくりとキャンプの反省会	小泉 喜由氏
12	キャンプ準備 I	合同キャンプへ向けて班会議	石川 太郎氏
17	〃 II	〃	
19 20 21	合同キャンプ 一三館の子ども たちが集合	五日市町青少年旅行村での合同キャンプに参加	
26	反 省 会	表彰式・まとめ	

総 括 3年目を迎え、子ども集団としてのまとまりがでてきたと思う。また、プログラムに五日市の1泊キャンプをとり入れたこと、班会議を多くとり入れたことは、子どもの仲間づくりに役立ったようだ。

しかし、真の意味での子ども集団をつくっていくためには、子どもをまとめられるリーダーを育成していく必要があると思う。

サバイバル教室

生きることへの努力をさほど必要としない現代において、子供自身が仲間と力を合わせながら、自らの生活をきりひらけるような生きぬく力、知恵を身につけることを目標に実施した。

期 間 昭和62年7月8日(水)～8月21日(金) 全11回

会 場 松林分館他

参加者 10人×11回＝110人

月 日	内 容
7. 8	はじめまして、教育の説明、自己紹介、室内ゲーム
15	竹で生活用具を作ろう 竹ではし、スプーンなどを作る
22	土器をつくろう 粘土で器、アクセサリなどをつくる
24	カレーづくりに挑戦
29	むすびの技を身につけよう いろいろなロープむすびを学ぶ
31	サバイバルキャンプ うちあわせ
8. 4	サバイバルキャンプ 丸太で家をつくる
5	↓ 野焼きで土器を焼く
6	↓
12	合同キャンプ説明会
17	合同キャンプうちあわせ
19	合同キャンプ
20	↓
21	↓

総 括 今回はロープむすびから、その技術を応用して、丸太小屋を組んでみた。しかし、子供たちは、むすびの技術を利用できるまでにはならなかった、しかし、小屋の居住は抜群によく、そこで2泊3日を過ごした。参加者は11名、そのうち3人は海外在住で夏休みなので帰国中の参加であった。

夏休み工作教室「音をつくろう」

竹や紙をつかって、手づくりのオリジナルな楽器をつくることを通し、工作の楽しさ、手先を上手に使うこと。また、音のなりたちと音階について学ぶ。あわせて、ともに音楽をつくる喜びを味わう機会とした。

期 間 昭和62年8月22日(土)～24日(月) 全3回

会 場 松林分館

参加者 15人×3回＝45人

講 師 松 本 公 博 氏(カテリーナ古楽器研究工房)他

月 日	内 容
8. 22	オリエンテーション、自己紹介 他
23	竹を使って ①トガトン制作 ②バードフルート製作
24	紙を使って UFOドラムの製作

総 括 子どもたちは自分の作った楽器からすばらしい音色がでることにたいへん興味を覚えたようだ。

冬休み工作教室「手作りたこをつくろう」

たこづくりを通して、手先のたくみ、集中してものごとをやりきる力を養うために実施した。高学年の子どもは、竹ひごも自分で竹から割り出していった。

期 間 昭和62年12月19日(土)～20日(日) 全3回

会 場 松林分館

参加者 7人×3回＝21人

講 師 高 崎 伊 平 氏(元小学校長)

月 日	内 容
12. 19	オリエンテーション、竹ひごづくり、たこ絵をかく
20	骨組み、紙はり
20	はり糸、あげ糸をつける、とばしてみよう

総 括 それぞれが思いおもしろいたこ絵を書き、オリジナルなたこができた。骨組み、糸目調節等難しいところは講師の手を借りなければならなかったが、みんな満足したようだ。当日は風がなく、いまひとつあがらなかったが、自分の作ったたこがあがりそうな感じをつかんでいったようだ。

たんけん教室

子どもの生活範囲は昔とそれほど変わっているとは思えないが、身近な自然に接する機会がかなり少なくなっていると思われる。また、仲間関係が希薄化しつつあり、集団で遊ぶことが出来なくなっていることは、多くの方々が指摘をしている通りだと思う。

そこで、今年のだんけん教室では、かたまりとして感じることの出来る人工的な自然環境である、「熊川団地」と「福生団地」を調べることににより、身近な自然を肌で感じることを目指した。また、集団で楽しく遊ぶということも中心にすえ、ウォークラリーを企画運営することで仲間との共同協力の力を身につける機会とした。

期 間 昭和62年4月25日(土)～63年3月27日(日) 全48回

会 場 公民館白梅分館・市内河原・滝山丘陵・草花丘陵・奥多摩など

参加者 25人×48回＝1,200人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
4. 25	オリエンテーション	自己紹介や年間スケジュールの案内	岡田 紀夫氏他
5. 16	市内オリエンテーリング	地図とコンパスの使い方の練習	〃
5. 31	滝山たんけん	地図とコンパスの使い方の実践練習	〃
6. 28	草花丘陵たんけん	草花の自然や地形を見て歩く	〃
7. 18	夏休み計画作り	夏休み中のプログラムの案内など	〃
7. 27	植物分布を調べる	熊川団地の植物調査1	宮岡 一雄氏と
7. 29	同 上	熊川団地の植物調査2	佐藤 文子氏
7. 31	同 上	熊川団地の植物調査3	〃
8. 1	同 上	熊川団地の植物調査4	〃
8. 3	同 上	熊川団地の植物調査5	〃
8. 5	同 上	福生団地の植物調査1	〃
8. 6	同 上	福生団地の植物調査2	〃
8. 7	同 上	福生団地の植物調査3	〃
8. 10	同 上	福生団地の植物調査4	〃
8. 12	} たんけんキャンプ	柳山公園でキャンプを行い、身近な自然の中で一日の移り変わりを知る	〃
8. 13			〃
8. 17	植物分布を調べる	福生団地の植物調査5	〃
			〃

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 19	} 合同キャンプ	公民館 3 館で合同キャンプを行う	実技指導員 他
8. 20		会場：五日市青少年旅行村	〃
8. 21			〃
8. 26	調査のまとめ	調査結果を図示化し緑の様子を再現	職 員 他
8. 27	同 上	同 上	〃
8. 28	同 上	同 上	〃
8. 29	同 上	同 上	〃
8. 31	同 上	同 上	〃
9. 12	自転車調整	翌日の狭山丘陵たんけんの準備	岡田 紀夫氏
9. 13	狭山丘陵たんけん	狭山丘陵を自転車で走破する	〃
9. 19	ウォークラリー準備	参加者用名札の制作	実技指導員 他
9. 26	同 上	同 上	〃
10. 3	同 上	参加賞用の七宝焼の制作	〃
10. 10	滝山丘陵食べ歩き	滝山で果実を収穫し、味覚を楽しむ	〃
10. 17	ウォークラリー準備	参加賞の七宝焼の制作	〃
10. 24	同 上	同 上	〃
10. 31	同 上	魚釣りゲームの制作	〃
11. 7	同 上	同上、奥多摩たんけんの打ち合せ	〃
11. 14	同 上	コース地図の制作	〃
11. 15	同 上	当日用看板の制作など	〃
11. 21	同 上	最終チェックと予行演習	〃
11. 22	ウォークラリー当日	17チーム約50人の参加者で終る	〃
12. 5	ウォークラリー反省会	ウォークラリーの反省を行った	〃
12. 25	おしるこパーティー	今年のたんけん教室を振り返る	〃
1. 10	野鳥観察	多摩川で冬鳥の観察を行う	岡田 紀夫 氏
2. 6	奥多摩たんけん打ち合せ	奥多摩たんけんの具体的な打ち合せ	〃
2. 11	奥多摩たんけん	大仁田山に出かけ冬の山を経験する	〃
3. 19	ファミリーハイキング	行き先や交通手段などの検討	〃
3. 20	同 上	下見調査に出かける	〃
3. 23	同 上	調査結果からパンフレット作成	〃
3. 27	同 上	今熊神社～五日市にハイキング	〃

総括 今年は雨天のために中止になった催し物が数回あった。しかし、年間で約50回もの機会をもったことは、職員、リーダーを含めたスタッフ、そして参加者の子ども達の結び付きを深く、そして広くすることが出来た。

子どもはやし教室

この教室は、はやしの習得を通じて、①地域での子どもの仲間づくり、②子ども自らの興味・関心を追求する力を養う機会、③地域の民俗芸能の継承、そして、④子どもが地域の親・おとなと一緒に活動する中で、ふるさと意識の芽生えとなることに向け実施。今年は仁羽と屋台の“地”・“絡み”（大かん含む）の習得に重点をおいた。

期 間 昭和62年8月3日（月）～9月28日（月）

午後7時30分～9時 全10回

場 所 白梅会館・熊川神社

参加者 小・中学生の男女 20人×10回＝200人

内 容 重松ばやし 仁羽・屋台

回	日 時	内 容	指 導
1	8月3日（月）	小太鼓 大カン 踊り	・仁 羽
↓	8月10日	父母会同時実施	熊川囃し経験者
3	毎週月曜日	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓
4	8月24日	地 絡み 大カン	・屋 台
↓	9月1日（火）	熊川神社祭参加実演	同 上
↓	9月7日（月）	午前中父母会実施	↓ ↓ ↓
10	毎週月曜日	↓ ↓ ↓	↓ ↓ ↓
	10月18日（日）	希望追加活動：子ども・親・おとな指導者合同バーベキュー	

尚、以後、自主活動で、1月15日“どんど焼き”・春の神社祭・さくら祭りなどに親の協力、おとな指導者のリードでそれぞれ参加し、演じている。

子ども教室

子どもの時代に、生き生きとした、子どもらしい生活を作り出せなくなった子どもたちが多くなってきた今日、あらためて、①子ども自身の手で、あそべる力を身につけていく。②手、足のたくみさを回復していく。③子どものもつ自治能力を回復していく。④みんなとなにかを一緒にやりとげる力を育てる。⑤自然のすばらしさ、豊かさを感じられる力を育てる。⑥異年令集団の中で、あそびの体験を豊かにしていくことが、非常に重要な課題になってきている。これらの課題を解決する方向で、子ども教室を開催した。

期 間 昭和62年5月23日(土)～10月3日(土) 午後2時～4時 全20回

会 場 松林分館及び多摩川等野外

参加者 30人(18人)×20回=600人 ()内は女子参加者

月 日	テ ー マ	講 師
5. 23	たのしくあそぼう 室内ゲーム	斉 藤 明 朗 氏 (文京大学学生) 加 藤 有 孝 (担当職員)
30	〃	
6. 6	〃	
13	野外ゲーム ボールを使ったゲーム	
20	カニ坂公園であそぼう	
27	つくってたのしむ=ワリバン鉄ぼう、笛	
7. 4	多摩川にでかけよう	
11	室内ゲームでたのしむ	
18	探検に出かける、木登り	
25	多摩川を渡ろう	
8. 1	キャンプの打ち合わせ	
9	松林キャンプ実習	
17	合同キャンプ打ち合わせ	
21~23	五日市青少年キャンプ村合同キャンプ	
9. 5	作ってあそぶ=自動車を作ろう	
12	〃	
19	〃	
26	〃	
10. 3	〃	

教室終了後、演劇がやりたいという小学生2年生から中学1年生までの13人によって、昭和63年6月現在まで「劇団ファンタスティック」として活動をつづけている。

夏休み子ども教室（パッチワーク）

子どもたちから、手の巧みさが失われて久しい。もう20数年になるがマスコミで子どもの手の不器用さが問題になった。エンピツがナイフでけずれない、ひもがむすべない。刃物が充分につかえない等、さまざまな形で問題になった。その状況は、今日、ますます深刻になっている。あらためて手先の労働に注目する必要がある。手労働を伝統的パッチワークをつかって、あらためて見直す場にした。

期 間 昭和62年7月24日～8月7日 午後1時30分～3時30分 全5回

会 場 松林分館

参加者 20人(19)×5=100人

月 日	テ ー マ	講 師
7. 24	作るものをきめよう（自動車、パジャマ入れ、サイフ）	深瀬 恵子氏
29	作品をつくろう	
31	〃	
8. 5	〃	
7	〃	

夏休みおもしろ科学教室

科学は法則の発見のたのしみがある。公式を暗記するという学習の多い中で、仮説実験授業のおもしろさを通して、科学的思考をあそびの中で、たのしむ機会にした。

期 間 昭和62年7月27日～8月10日 午前10時～12時

会 場 松林分館

参加者 12人(5人)×4回=48人 ()内は女子

テーマ 気体の性質

月 日	テ ー マ	講 師
7. 27	まむしの卵をつくる	斉藤 明朗氏 (文京大学)
29	ラムネをつくろう	
8. 3	気体の性質	
10	気球を飛ばそう	

新聞紙で気球の製作を行った。気球を飛ばす浮力計算、気球を飛ばす原則の説明に、中学3年、高校1年が、かなり専門的質疑をかわしていたのが印象的であった。製作した気球は五日市青少年村での子ども合同キャンプで上げた。

第5回子どもフェスティバル

子ども社会が本来もっていた仲間とかかわりながら、子ども自身の手で自治的能力を確保し、子ども自身の手で1つの文化を創りあげる場が、いま積極的に用意される必要がある。

子どもが仲間と一緒になにかをやりとげていく、その全過程を通して子どもたちが一つの表現をしていく、子どもにとっての文化創造の場として、フェスティバルを開催している。

準備期間 昭和62年1月8日～5月10日 午後1時～4時

リーダー会議 午前10時～12時

はらべこ会議 午後5時～8時 (指導員、リーダー会議)

参加者 25人(16)×15回=275人 ()内は女子

当日 昭和62年5月10日 午前10時～4時 参加者 350人

大 集 会 室	午前10時～映画 11時 劇「目を覚ませトラゴロウ」 午後1時15分 人形劇 11ぴきのねこ。ペープ、サート、ドラねこごんた。 2時～30分 パネル、シアター、三匹のやぎとガラガラドン 絵本を読み聞かせ 3時～4時 劇「目を覚ませトラゴロウ」
小集会室	午前10時～午後4時 おばけやしき
学習室	午前11時～12時 パネルシアター 午後2時～3時 絵本読み聞かせ、パネルシアター
夜	模擬店

松林文庫

地域の子どもたちが、すぐれた絵本や児童文学がきがるに読める場として、文庫を開催している。今年で8年目になる。

期 間 昭和62年4月2日～昭和62年3月31日 午後3時～5時 全50回

会 場 松林分館

参加者 15人×50=750人

(3) 青 年

青少年ボランティア講座

青少年層にボランティア活動への参加の機会を設け、その体験をととして社会福祉への理解を深める場とした。

期 間 昭和62年6月6日(土)～8月1日(土)

午後2時半～4時半 全5回

会 場 公民館

参加者 27人×4回＝108人

月 日	内 容	講 師
6. 6	ボランティアってなあに？	榎 ひさ恵氏(日本青年奉仕協会)
6. 13	障害者とボランティア活動	山下 勉氏(青梅学園園長)
6. 20	老人とボランティア活動	馬場えよ子氏(松楓園理事長)
6. 27	これからにむけて	久保田武男氏(秋川市花さき村村長)
8. 1	活動体験学習説明会	

総 括 27人の参加者中、今回はじめて男子の参加者が2名あった。この傾向を今後とものばしていきたい。27人の参加者が7ヶ所に分かれ、ボランティア活動を実施した。

中国語会話講座

中国語の学習を通して、中国の文化にふれ、中国という国を理解していき、合わせて参加者相互の交流をはかり仲間づくりをする場として実施した。

期 間 昭和62年7月16日(木)～12月23日(水) 午後7時～9時 全20回

会 場 公民館

参加者 18人×20回＝360人

月 日	テ ー マ	講 師
7. 16	オリエンテーション、自己紹介	戴 曉 誠 氏 (東海大学 留学生)
7. 23	基本表現、発音	
7. 30	機嫌を伺う、初対面のあいさつ	
8. 6	発音(四声、子音、母音)	
8. 13	発音(四声、子音、母音)	
9. 10	発音(四声、子音、母音)	
9. 17	中国を紹介したビデオの観賞	
9. 25	面会の仕方	
10. 1	面会の仕方	
10. 8	面会の仕方	
10. 15	質問の仕方	
10. 22	質問の仕方	
10. 29	期日の表現	
11. 12	期日の表現	
11. 19	期日の表現	
11. 26	時刻の表現	
12. 4	時刻の表現	
12. 10	時刻の表現	
12. 17	再会のあいさつ	
12. 23	まとめ(中国料理の調理と話しあい)	

総 括 テキストを中心とした学習のため、参加者の語学力はアップしたが、参加者相互の交流をはかるという意味での映画の観賞等の機会が少なすぎたように思う。

(4) 障 害 者

青年学級「にじのはらっぱ」(障害者青年学級)

障害を持った青年が、集団活動をしながらか仲間づくりや基礎的生活習慣を身につける場として実施した。

期 間 昭和62年5月10日(日)～63年3月13日(日) 午前10時～午後3時

会 場 公民館及び野外

参加者 27人×22回=594人

回	月 日	内 容	場 所
1	62. 5. 10	開級式	公 民 館
2	5. 24	文化祭作品づくり(陶芸)	
3	6. 7	ボーリング	
4	6. 21	ハイキング	昭和記念公園
5	7. 5	公民館のつどい参加	〃
6	7. 19	河川清掃	多摩河原
7	8. 2	プール	
8	8. 16~17	夏期合宿	山 中 湖
9	9. 6	プール、調理	
10	9. 20	社会科見学	
11	10. 4	文化祭作品づくり	公 民 館
12	10. 10	〃	〃
13	11. 1	文化祭	〃
14	11. 15	ハイキング	
15	12. 6	忘年会	
16	12. 20	演劇鑑賞	公 民 館
17	63. 1. 10	新年会、ゲートゴルフ	体 育 館
18	1. 24	ハイキング	
19	2. 7	公民館の青年とのスポーツ大会	体 育 館
20	2. 21	プール、合宿打合わせ	多摩障害者 スポーツ・センター
21	2.28~29	冬期合宿、苗場	
22	3. 13	閉級式	公 民 館

総括 今年度新たに4名の参加者をむかえ、より学級生同士の関係が密になってきた。
今後とも、より親密な信頼関係の中で学級生のかかえる生活課題の解決を図れるように努力していきたい。

聴覚障害者のための映画会

聴覚障害者のために字幕付き邦画を上映し、映像文化に接する機会を設けた。

会場 公民館

参加者 90人

月 日	作 品 名	時 刻	入場者数
5月22日(金)	そ れ か ら	午後7時半	20
7月31日(金)	転 校 生	〃	23
11月28日(土)	二 十 四 の 瞳	午後7時	27
2月26日(金)	ね む の 木 の 詩	午後7時半	20

総括 入場者数は少ないようだが、毎回楽しみにしている固定客もふえてきている。
邦画を楽しむ機会の少ない聴覚障害者には、この映画会は貴重な場であろう。

(5) 婦 人

人形劇をつくる

子育て中の若い母親は、精神的にも肉体的にも閉鎖状態な面が多いと言われている。そして、
そのために、子育てノイローゼになる率がかなり高いと言われている。

今回のこの教室では、人形を作るだけでなく人形劇を演じることまでおこなうことにより、
社会的にも自分の内面にも解放され、開かれた子育てができるように考え実施した。

期 間 昭和62年5月21日(木)～9月17日(木) 全15回

会 場 公民館白梅分館

参加者 9人×15回＝135人

日 時	テ ー マ	内 容	講 師
5. 21	オリエンテーション	自己紹介・保育室の説明など	職 員
5. 28	人形劇とは何か?	人形劇の持つ多様な意味を話してもらう	原嶋 卓三氏
6. 4	人形の製作	自分の好きな人形の頭部を製作する	〃
6. 11	公民館保育とは何か 1	公民館保育の生れてきた状況などの説明	加藤 有孝氏
6. 18	人形の製作	頭部の製作の終了した人は、表情の書込み	原嶋 卓三氏
6. 25	保育の様子 1	保育室に参加して1ヶ月の様子を聞く	保 育 者
7. 2	人形の製作	衣服や小道具の製作	原嶋 卓三氏
7. 9	シナリオの完成	シナリオの完成に伴い、背景などの製作	〃
7. 16	公民館保育とは何か 2	子どもをあずけてまでして学ぶ意味は何か	職 員
7. 23	背景の製作・他	背景や小道具の製作をつめる	原嶋 卓三氏
7. 30	保育の様子 2	保育室に参加して2ヶ月の様子を聞く	保 育 者
8. 27	本読み稽古	シナリオを読みあうなど、稽古に入る	原嶋 卓三氏
9. 3	効果音などの作製	色々な道具や背景など最終確認をする	〃
9. 10	立ち稽古	本番と同じセットでリハーサルを行う	〃
9. 17	保育の様子 3・人形劇	保育の様子を聞く。子どもの前で劇を上演	〃

総 括 家庭に入ってしまった長い年月がすぎ、ついものを書くという習慣から離れてしまったために、今回の講座の中での感想文提出などは、かなりきつかったようだ。しかし、書いていくうちに苦ではなくなった様子がわかった。

人形劇を演じることは、自分を演じることであり、自分自身を解放して作っていかないと本物が出来ないということを感じた人がいたようだが、小さい子どもを抱えているため、人形劇団として中身を充実・発展させることは難しい。今後の課題として考えていかなければならない。

家庭教育学級「手づくり絵本」

ここ20数年来、若い母親の子育てがさまざまな問題をかかえて来ている。その特徴の第1が、母子密着である。第2が、母親だけが子育てを担うという、性別役割分業の徹底ということである。そのために、若い母親の子育てへの目が極端に狭くなってきている。こうした状況の中で、自分の子どもの成長をテーマに絵本を創ることによって、あらためて自分の子育てをふり返えり、また、絵本を作るということを通して、自分の世界を持つことの大事さに気づきながら、自立への契機にしていくことを目的とした。

テーマ 手づくり絵本をつくる

期 間 昭和62年5月18日(月)～9月26日(月)午前10時～12時 全15回
会 場 松林分館
参加者 14人×15回＝210人

月 日	内 容	講 師
5. 18	オリエンテーション	武藤 順子氏 (絵本作家)
25	子育てや子どもの文化について語ろう	
6. 1	絵本について(手づくり絵本のたのしさ)	
8	どんな絵本をつくろうか。ストーリーを考える。	
15	絵本の枠組みを考える	増田 公子氏
22	子育てパートⅡ(保育室から、子どもの発達を考える)	
29	絵本の技法(筆のつかい方、絵具の選び方、染)	武藤 順子氏 (絵本作家)
7. 6	絵本の制作	
13	絵本の制作	
20	絵本の制作	
27	保育室を考える(保育室の様子、子どもをあずけて学ぶ)	下里 恵子氏
8. 17	絵本の制作	
9. 7	絵本の制作	武藤 順子氏 (絵本作家)
14	絵本の製本	
21	絵本合評会	
28	保育を考える＝子どもが育つこと	中村

母と子のコミュニケーション学

母と子の自立には、現在の母と子の閉塞された状況を考えることが必要になってくる。そのなかで一番大事なことは、母親自身がその状況から一步、外に出ようとする気持ちをもつことではないだろうか。本講座では、そのきっかけづくりの場をもてるように、現在の母と子の状況、コミュニケーション（かかわり）について学んだ。

期 間 昭和62年5月21日（木）～9月17日（木） 午前10時～12時全15回

会 場 公民館集会室

参加者 14人×15回＝210人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 21	オリエンテーション	講座の説明	
28	仲間を知ろう	自己紹介	
6. 4	保育室とは	保育室はどうしてできたか	熊谷 真弓氏
11	保育室から（保護者学習会）	保育日誌から	増田 公子氏
18	母と子のコミュニケーションⅠ	母と子の現状、問題	熊谷 真弓氏
25	Ⅱ	母と子の現状（話し合い）	
7. 2	Ⅲ	子どもの成長について（話し合い）	
9	保育室から（保護者学習会）	保育日誌から	高崎 文江氏
16	母と子のコミュニケーションⅣ	かかわり、つながりとは（話し合い）	
23	Ⅴ	子どもの成長のとらえ直し（話し合い）	熊谷 真弓氏
30	父親とのコミュニケーションⅠ	大人自身の成長とは	熊谷 真弓氏
8. 27	Ⅱ	夏休みのようす、前回の課題（話し合い）	
9. 3	保育室から（保護者学習会）	保育日誌から	中川キミ子氏
10	地域でのコミュニケーション	地域のかかわりとは（話し合い）	
17	ま と め	自主化に向けての話し合い	

総 括 話し合い中心のプログラムにしたが、もう少し発言する力をつけたかった。また、プログラムの内容が抽象的すぎた感があり、自分の身の回りの問題を現実的な視点でとらえなおす場をふやしていきたいと思う。

自主グループ「でんでん虫」として活動を始める。

家庭教育学級「子育てに必要な親のかかわりとは」

子どもが豊かに育っていくために親はどういうかかわり方をすればいいのか、皆で話しあい
学びあう場として実施した。

期 間 昭和62年11月13日(金)～昭和63年3月18日(金)

午前10時～正午 全15回

会 場 公民館

参加者 13人×15回＝195人

月 日	テ ー マ	講 師
11. 13	オリエンテーション	
11. 20	自己紹介 I	
11. 27	自己紹介 II	
12. 4	公民館保育室とは I 「公民館保育室の生まれてきた状況」	加藤 有孝氏
12. 11	〃 II 「子どもをあずけて学ぶことの意味」	〃
12. 18	保護者学習会 I	中川キミ子氏
1. 8	子育てに必要な父親の役割 I	岡本 富郎氏
1. 15	〃 II	〃
1. 29	保護者学習会 II	佐々木京子氏
2. 5	生活リズムの意味と基本的生活習慣	岡本 富郎氏
2. 19	遊びの意義と親のかかわり方	〃
2. 26	保護者学習会 III 「保育日誌の読み取り」	小林富美子氏
3. 4	〃 IV 「 〃 」	新井 恵子氏
3. 11	〃 V 「 〃 」	中村けい子氏
3. 18	ま と め	

総 括 後期(11月～3月)ということで風邪等での欠席が目立ったが、積極的な参加者が多く、講座の後半では、参加者からの要求による「保育日誌の読み取り」がおこなえたことは成果である。

おさない子どもをもつお母さんの教室「子育てからの出発」

子どもを産み、母親になったことを自分自身の成長の出発点にしていけるよう実施した。

期 間 昭和63年1月28日(木)～3月31日(木) 午前10時～正午 全9回

会 場 公民館

参加者 5人×9回＝45人

月 日	テ ー マ	講 師 ・ 助 言 者
1. 28	保育室について説明します	
2. 4	自分のこと、話してみませんか	
2. 18	子育てのこと、話しましょう	
2. 25	保護者学習会	新井恵子氏（保 育 者）
3. 3	子育てをめぐる問題を考えましょう その1	
3. 10	” ” . その2	
3. 17	子育て以後の再就職	富永静枝氏（白梅短大教授）
3. 24	これからの私（前回の講義をうけて話しあい）	
3. 31	講座のまとめ（保育室に参加して）	

総括 学習を深め、交流を深めるためにはもう少し回数が必要と感じた。保育室併設だったので、子どもたちのかかわりの点からも回数は必要である。しかし、反面少人数だったので話しやすい雰囲気ができ、短期間ではあったが学習ははかどったと思う。また、保育者1名に毎回出席してもらい、アドバイザー的な立場で話をしてもらったが、良かったと思う。

お父さんも一緒につくる保育室

育児は母親だけのものではない。父親のはたす役割りとは何かを考えるため、今年の金曜保育園は、父親の参加も条件とした。

期 間 昭和62年5月22日(金)～9月25日 午前10時～正午 全10回

会 場 公民館第2集会室

参加者 9人×15回=135人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 22	オリエンテーション		
5. 29 6. 5 6. 12	自 己 紹 介	各自の生いたちから現在の子育てまで、書いてもらった自己紹介文を読みながら、お互を理解する。	
6. 19	保育室学習会	保育室の子供たちの様子を保母から聞き、育児のあり方について研究する。	中村けい子氏
6. 26 7. 3 7. 10	主婦ってなんだろう	家庭の中での女の役割り、男の役割りとは何かを考えながら、主婦とは、母とは、女とは何なのかをもう一度見直す。	赤木 幹子氏
7. 17	保育室学習会	保母から子供たちの様子を聞き、自分たちの育児観についてもう一度考える。	佐々木京子氏
7. 24 8. 28 9. 4	亭主ってなんだろう	家庭での男の役割りは亭主というイメージで良いのか。核家族化などで父、母、子供という関係も大きく変化している中で、新しい亭主像を考える。	赤木 幹子氏
9. 11	保育室学習会	新しい育児観で、これからの保育、子供たちの仲間づくりを考える。	下里 恵子氏
9. 18	これからの夫婦	女だから、男だからという概念をすて、新しい夫婦観、育児観を考える。	赤木 幹子氏
9. 25	自主化に向けて	講座終了後も、家族ぐるみの付き合いが続けられるよう話し合う。	

お父さんも一緒につくる保育室父親の部

期 間 昭和62年7月18日～11月3日 全3回

会 場 公民館第2集会室及び熊川南公園

参加者 9人×3回＝27人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 18	男の役割って何だろうⅠ	家庭の中での男の役割りとは何か。男だかららしくなくていい、女だかららしくなくてはならないということは決まっていはず。男でも女でも手のあいている方がするのが自然ではないだろうか。家事、育児はなぜ女の仕事にされているのか。男の役割りとは何なのかを改めて考える場とする。	桜井陽子氏
10. 7	男の役割って何だろうⅡ		秋山典子氏
11. 3	男が料理する	家族同士の付き合いができるよう南公園で男が料理し、昼食会を開催した。	

総 括 昨年の本館金曜保育室コースは、地域での仲間づくりを行い、その中でお互いに育児を行っていくという主旨でプログラムを組んだ。それは母と子を地域の中で多くの人々をつなげることに成功したが、それは女と子供だけのつながりだけに終わってしまい、男を育児の場に引き出すことはできなかった。

今年は、その反省をふまえて保育室参加の条件として、父親も別に設ける講座に参加することとし、保育室やそれに伴う講座で共通の話題ができるようにし、男の育児への参加をうながすような方向づけをした。

初めての試みではあったが、9家族とまとまりのある数だったこともあり、子供とその母親だけの付き合いから家族の付き合いに発展し、それは男にも会社や趣味の仲間以外の新しい発見をさせた。

家庭教育学級「はじめての子育て」

幼児の成長・発達を考えていくとともに、主婦のおかれている状況をみつめなおし、これからどう生きるかという視点で実施した。

期 間 昭和62年11月18日（水）～昭和63年3月9日（水） 全15回

会 場 松林分館

参加者 14人×15回＝210人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 18	オリエンテーション	学級の説明・簡単な自己紹介 他	
12. 2	お互いをよく知ろう	自己紹介	
12. 9	〃	〃	
12. 16	保護者学習会①	保育室での子供のようす、フォーカスを読んで	新井 恵子氏
12. 23	私たちの課題を探る	自分たちのおかれている状況、課題を出し あい整理する	
1. 6	プログラム検討	課題を整理し、プログラムの柱をたてる	
1. 13	保護者学習会②	保育室での子供のようす、フォーカスを読んで	穴戸 夏子氏
1. 20	幼児の成長・発達①	映画「さくらんぼ坊や」を観る	
1. 27	〃 ②	〃	
2. 3	〃 ③	映画を観ての感想と子育てについて	中村けい子氏
2. 10	母親のおかれた状況 心理状態と子育て	参加者がそれぞれの思いを語る中で、課題 を深めていく。	
2. 17	子育て以後の私の生 き方 ①	婦人労働の実状と主婦の再就職 斉藤美佐子氏、黒木まゆ美氏の実践報告	富永 静枝氏 (白梅短大教授)
2. 24	〃 ②	ライフサイクルの変化、将来の生活設計	〃
3. 2	地域での自主的な保 育活動について	共同保育「まつぼっくり」「桃太郎」の方 に加わっていただき、子育てと親同士のつ ながりについて考えあう。	
3. 9	まとめと反省		

総 括 「はじめての子育て」というテーマであり、当初子育てのHow Toもののような感覚で参加された方が多かったが、各人の課題をさぐるなかから、より本質的な方向へ向いていったようだ。後半2回、主婦の再就職をテーマにとりあげたが、多くの参加者が、働くことと子育てとのはざまでゆれ動いているのがわかった。

講座終了後「さくらんぼ」という自主サークルを組織したが、解散にいたった。
参加者の中の3名は、子供を保育園にあずけ、パートだが働きに出ている。

婦人問題講座「子育て以後の私の生き方」

子育て以後の婦人の状況については『妻たちの思愁期』や台所症候群、空巢一等、種々報告がなされている。それは、とりもなおさず婦人問題なかんずく性別役割分業から起因するものであろう。ここでは子育て期、そして子育て終了期にある婦人の問題をさぐり、将来をみすえた課題解決の方途をさぐる目的で実施した。

期 間 昭和62年11月2日(月)～

会 場 松林分館

参加者 7人×6回＝42人

講 師 富永 静枝氏(白梅短大教授)

月 日	テ ー マ	内 容
11. 2	オリエンテーション	講座の説明、自己紹介あわせて各自の思いを出す。
11. 16	妻たちの思愁期と 婦人問題	新聞記事、投書、本などから、さまざまな問題提起がされているが、それを婦人問題、家族問題の視点からとらえなおしてみる。
11. 30	私のライフサイクル	ライフサイクルの変化といわれて久しいが、そのことの持つ意味をもう一度考えてみよう。あわせて自分のライフサイクル表をつくってみよう。
12. 14	私たちの課題	自分自身のライフサイクル表から課題をよみとってみよう。
12. 21	生きいきとした 私の人生のために①	第3期をどう生きるか、社会全体のそして自分自身の老後の課題を明確にしていく。婦人問題・性別役割分業のない社会のために子供たちにどうつなげるのか、
1. 11	〃 ②	の3点を柱に講師の講義を中心として話し合いを行う。

総 括 松林分館では、毎年、平日夜間に婦人問題の講座を実施していた。今回、公民館調査をもとに、平日の午後講座を設定してみたが、テーマが漠然としていたためか、思ったほど人が集まらなかった。あらためて、主婦層に対する婦人問題のアプローチの難しさを認識した。

講座の中味は、それぞれの参加者の具体的なこれからの手だてをつくっていく上で、大変有意義だと思ったが、その輪をさらに広げていきたい。

お母さんのカメラワーク

カメラ機材にこだわらず、手持ちのカメラを使って、子どもの成長の一瞬をフィルムにとどめ、ファインダーを通して、子どもの成長や真の姿に目をとめる機会として実施した。

期 間 昭和 62 年 10 月 9 日（金）～11 月 6 日（金）

午前 10 時～正午

会 場 公民館及び野外

参加者 17 人×4 回＝68 人

月 日	内 容	場 所
10. 9	子どもの目の高さで	公 民 館
10. 16	動きをとらえる	〃
10. 23	野 外 シ ョ ッ ト	羽村町動物公園
11. 6	ま と め	公 民 館

総 括 講座終了後、公民館ギャラリーを使っての作品発表会をおこなった。記念写真的でなく、子どもの動きの瞬間をそのままとらえることを主眼においた。

しらうめ“婦人のひろば”

現代の社会変化の中で、婦人の生活は家庭生活のほかに、さまざまな形態でしごとをもつようになっている。また、生活年齢上の課題解決を含め、今後の生き方・生活の展望を見いだす事が求められている。そこで、婦人の地域での人と人とのつながりから、一人ひとりの生活づくりにむけることに加え、ことしは、まちづくり・都市社会のこれからを視野に、以下のように実施した。

期 間 昭和 62 年 10 月 5 日（月）～昭和 63 年 3 月 28 日（月）

午後 7 時 30 分～10 時 全 21 回 3 コース

会 場 白梅会館・熊川体育館・ほか野外

参加者 スポーツ・レクリエーション 20 人×5 回＋語らい総合 25 人×12 回＋婦人懇談会 20 人×5 回＝500 人

スポーツ・レクリエーション活動

回	月 日	内 容	備 考
1	1 0月 5 日(月)	リズム体操・ダンス・ストレッチ体操	吉野チエ氏 (体育指導員)
2	2 6 日	インディアカ・テニポン・バドミントン	
3	1 1月 2 日	その他各種軽スポーツ	
4	1 2月 7 日	(熊川体育館)	
5	3 月 7 日(月)		
*	このほかメンバーの自主活動で野外ハイク神代植物公園・高尾山など実施。		

語らい総合活動

回	月 日	内 容	備 考
1	10月12日(月)	ふっさ地名考・地域福祉そのⅠ	立川氏・川辺氏
2	10月19日	うたおう・語ろう人生よもやま	話し合い
3	11月 9日	福生の歴史・民族・文化財	立川愛雄氏
4	11月16日	地域福祉そのⅡ	川辺 進氏
5	11月23日	熊川見て歩き	立川愛雄氏
6	12月21日	忘年会、それぞれのこの一年	懇親話し合い
7	1月18日	新年の希望を語る	話し合い
8	1月25日	映画と話し合い	川辺 進氏
9	2月 8日	片倉(製糸→自転車)・福生今昔	立川愛雄氏
10	2月15日	うたおう語ろう人生よもやま	話し合い
11	2月22日	地域福祉そのⅢ	川辺 進氏
12	3月21日	ゆったりハイク・百草園	ハイキング

婦人懇談会

回	月 日	内 容	備 考
1	11月30日(月)	中高年期の婦人の健康管理について	健康センター阿部
2	12月 4日	国・都の老人福祉施策、施設等	都老研 岡本多喜子氏
3	2月29日	停車場(福生駅)の今昔	橋本孝蔵氏
4	3月14日	生物としての人間・緑の街づくり	宮岡一雄氏(明大教授)
5	3月28日	21世紀への大都市像 (婦人の生活をめぐる都市の状況)	松田雄孝氏 (大東学園専門学校)

以上、3コース連続実施とし、終了後は“自主婦人のひろば”として活動をおこなっている。

(6) 成 人・一 般

市民文化教室

1. 主 催 福生市公民館・福生市文化連盟
2. 目 的 多くの市民に趣味や実技、教養に関する初歩的学習の機会を提供することによって、市民の文化諸活動への参加を促し、市民文化活動の拡大に役立てる。
公民館は、連盟の力を伸ばすとともに、市民の学習の場を拡大していく。
文化連盟は、連盟の持つ力を市民に提供することによって、市民文化形成のリーダーの役割を果たすと同時に、組織の拡大（参加者や学習面）に役立てる。

文 化 連 盟 共 催 （ 8 コース）

コース	開 講 期 間	内 容	指 導 者	参加人員
俳 句	6月 6日（土）から 全10回 午後	現代俳句のやさしい作り方 と鑑賞の仕方	来住野臥丘氏	300人
社交ダンス	7月10日（金）から 全10回 夜間	初心者対象の基本ステップ	小林 武氏	600人
詩 吟	8月20日（金）から 全10回 夜間	富士山、川中島、塞翁ケ馬 春望 他	井上 楓風氏	110人
茶 道	9月 7日（月）から 全10回 午後	表千家茶道の初歩	高山 君子氏	200人
民 踊	7月11日（土）から 全10回 午後	伊勢音頭、浪花節だよ人生 は 他	花柳千衛里氏	290人
編物手芸	7月 8日（水）から 全10回 午前	初秋向けのあみもの	堂田きよ子氏	400人
書 道	9月 4日（金）から 全10回 午前	初心者向けのかな、漢字	私市 石蘭氏	290人

公民館主管コース

コース	期 間	内 容	指 導 者	参加人員
高 齢 者 ワープロ 教 室	10月29日(月)～ 23日(金)午前 全4回	ハンディタイプのワードプロセッサの基本操作と簡単な文章作成	遠藤理恵氏 井梅靖子氏	150人
	63年2月22日(月)～ 26日(金) 午前 全4回			150人
初 心 者 ワープロ 教 室	10月29日(月)～ 23日(金)午後 全4回	ハンディタイプのワードプロセッサの基本操作と簡単な文章作成	遠藤理恵氏 井梅靖子氏	150人
	63年2月22日(月)～ 26日(金) 午後 全4回			150人
ステンド グラス 教 室	6月3日(水)～ 12月9日 午後 全23回	直径28cm高さ18cmのブドウ柄のティファニーランプシェードの作成	津田映子氏 鹿住雅子氏	115人

16ミリ発声映写機操作講習会

16ミリ発声映写機の操作技術の修得と、視聴覚教材の知識を身につける機会とした。

期 間 昭和62年6月25日(木)～28日(日)

午後7時～10時(28日のみ午前9時～午後4時) 全4回

会 場 公民館

参加者 17人×4回＝68人

月 日	内 容	講 師
6. 25	視聴覚教育について	矢本 敏行氏 佐藤 勝貫氏 上島 茂氏
6. 26	16ミリ映写機操作練習	
6. 27	〃	
6. 28	個別操作と修了式	

総 括 講習会での修了証取得者にその映写技術を生かす機会を設けるためにも、映写技師を求める側とのスムーズな橋わたしの方法を考える必要がある。

市民大学講座 法律コース「教育法をまなぶ」

身近な法律を学ぶことによって法の精神を学び、我々の社会に法がおかれている意味を考える機会とする。

期 間 昭和63年2月26日(金)～3月18日(金) 午後2時～4時

会 場 公民館

参加者 6人×4回＝24人

月 日	内 容	講 師
2. 26	法を生かすもの、創るもの	小野 征夫氏 (日本福祉専門学校)
3. 4	教育基本法を読む	
3. 11	〃	
3. 18	〃	

総 括 教育法をめぐる理想と現実との距離をあらためて考えさせられた。しかし、その現実にあきらめず、今後も学習を続けていく必要を参加者も感じていた。

公民館講座「福祉を考える」

市内のさまざまな福祉関係の活動団体が、交流をはかる中で連携を保ちつつ、互いに発展していけるための機会として実施した。

期 間 昭和63年3月3日(木)～3月24日(木) 午後7時半～9時半

会 場 公民館

参加者 17人×4回＝68人

月 日	内 容	講 師
3. 3	福祉活動と公民館	奥田 泰弘氏 (中央大学教授)
3. 10	市内のさまざまな福祉活動	
3. 17	〃	
3. 24	〃 、まとめ	

総 括 福祉関係のサークルが回を重ねる度に仲間を誘い合い参加者がふえていった。ボランティアを求める側としたい側の橋わたしがこの講座によって成し得た。この講座をきっかけに「福祉を考える市民のつどい」を作っていこうとの気運が盛りあがった。

公民館（本館）利用者研修会

公民館を利用しているサークルが情報交換や交流をはかり、また、普段使っている公民館のことを考える機会とした。

期 間 昭和63年3月23日（水） 午後7時半～9時半

会 場 公民館

参加者 30人

月 日	内 容	講 師
3. 23	サークル活動と公民館	小野 征夫氏（日本福祉専門学校）

総 括 公民館利用サークル数にしては、参加者が少なく、今後より広範に自分達の使う公民館について考える気運をもちあげる必要を感じた。

第6回 公民館のつどい

公民館利用者相互の交流と親睦を深め、公民館で活動する意味を考える機会として実施した。

期 間 昭和62年5月8日（金）～7月13日（月）

実施日 昭和62年7月5日（日）

会 場 公民館

参加者 160人

月 日	テ ー マ	内 容
5. 8（金）	第1回実行委員会	予算概要の説明、つどいイメージの出し合い
5. 22（金）	つどいを考える会	つどいの趣旨の説明
6. 4（木）	第2回実行委員会	話し合いテーマ
6. 18（木）	第3回 “	当日の時間設定
7. 2（木）	第4回 “	参加予定者数・会場・役割分担の最終確認
7. 5（日）	公民館のつどい	つどい当日
7. 13（月）	つどいをふりかえる会	

総 括 長年課題であった「つどい」の形態が、今後「話し合い」形式で実施していくことが確認された。「公民館のつどい」も6回目を迎え、各分科会・全体会とも内容が充実してきている。今後は年一回の「つどい」時だけでなく、恒常的な交流が期待される。

婦人問題講座「女と男の未来」

家族を問い直すなかから、あらためて女と男の関係、夫婦、親子について考える機会として実施した。

期 間 昭和62年4月2日(木)～6月18日(木)

午後7時30分～9時30分 全10回

会 場 公民館

参加者 48人×10回＝480人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
4. 2	家族って何だろう I	結婚とは? 家族とは? 家族にお	吉武 輝子氏
4. 9	〃 II	きている問題を考える	(評論家)
4. 16	私にとって家族とは I	社会の中の家族の役割	折井美耶子氏
4. 23	〃 II	自分の問題を出しあい整理する	(女姓史研究家)
5. 7	子育てから見た女のすがた、男のすがた	子育て期の女姓を通して	熊谷 真弓氏
5. 14	女たちが手をつなぎあうために	いろんな立場の女の問題をみんなの問題にしていくために	(武蔵大講師)
5. 28	これからの女と男 I	これからの夫婦、家族を考える	海老坂 武氏
			(一橋大教授)
6. 4	これまでのまとめ	話しあい	
6. 8	これからの女と男 II	これからの夫婦、家族を考える	海老坂 武氏
6. 18	講座のまとめ	これまでのまとめ	折井美耶子氏

総 括 準備会から講座のプログラムづくりをした。男性参加者もあり、いろんな層の人が集まったので、話し合いが活発に行われた。終了後、話し合いを続けたい参加者が中心となって、「女のつどい実行委員会」へと発展した。

女のつどい「シネマ&トーク」

映像を通して女性の生き方を話しあう場として実施した。

期 間 昭和63年3月12日(土) 午後1時30分～5時

会 場 公民館

映 画 「愛のイェントル」 主演 バーブラ・ストライサンド

参加者 20人

総 括 市外の参加者も何人かいた。映画をみて話しあうという形は2回目だったが、好評だったので、「女のつどい実行委員会」が継続して行くことになった。

文学教室「文学との出会い」

気軽に文学にしたしむ講座として実施した。

期 間 昭和62年9月10日(木)～10月29日(木)

午前10時～正午 全7回

会 場 公民館

参加者 11人×7回＝77人

月 日	内 容	講 師
9. 10	自己紹介、三好達治、堀辰雄の詩	武田 秀夫 氏 (朝日新聞「色鉛筆」) 著者
9. 17	「ぼくのお姉さん」 丘修三	
10. 1	「黒猫」 ポー	
10. 8	詩集「北国」 井上靖	
10. 15	「風と木の詩」 安房直子	
10. 22	「ピレモンとバウギス」(「ギリシャ神話」より) 「河霧」 国木田独步	
10. 29	「愛と希望の街」 大島 渚 「しろばんば」 井上靖	

総 括 毎年実施しているので、参加者の中には楽しみにしていたという人もいて、定着してきたようだ。今回はいろいろな作品をとりあげたので楽しい内容になった。

だれでもなんでも展（松林分館文化祭）

地域に開かれた文化祭をめざし、1) 地域の中で、こつこつと作品を作っていたり、日常生活の中で行われている文化的な営みを掘りおこし、そうした人々を地域でつなげていく。

2) そうした人々をつなげる役割を分館利用者が担っていく。3) サークルの活動を発表し、地域にひろげていく、という三つの柱をもとに、利用者交流会が主体となり、実行委員会を結成し、準備、実施にあたった。

○準備日程、内容

9. 5	だれでもなんでも展の基本確認、展のイメージづくり、テーマの検討、決定
9. 12	実行委員長選出、呼びかけ文の検討、決定、ポスター・チラシについて
9. 19	ポスター作成、掲示状況の確認、内容の検討、チラシ作成について
9. 26	参加の状況の集約、ポスター・チラシの状況報告、内容の検討
10. 3	ポスター（当日用）原案決定、作品の応募状況について、内容について
10. 12	PR関係について、作品応募状況の集約、当日役員体制の決定
10. 17	展示の部屋割りについて、作品搬入、展示準備について、模擬店について
10. 23	作品搬入、会場づくり
11. 7	反省会

○参加者 15人×9回＝135人

○今年のテーマ つなぐ手 ふれあいの場、手づくりの輪

○当日のプログラム

10月24日（土）午後1時～5時

○展示コーナー（分館利用サークル作品、活動紹介、一般応募作品等の展示）

○映画「ゼロ弾きのゴーシュ」

○おはやし

○喫茶コーナー

10月25日（土）午前10時～午後4時30分

○展示コーナー

○チャレンジ・コーナー「竹工作、らくがき、おりがみ」

○映画「ゼロ弾きのゴーシュ」「自主制作8m/m映画」

○民謡「うたと踊り」

○人形劇、パネルシアター

○マジックショー

○ジャズ演奏

○模擬店「やきそば」「おでん」「ポップコーン」「わたあめ」

○喫茶コーナー

○展示作品総数 489点 (一般 359、利用サークル 130)

○出品者、団体数 124 (一般 113、利用サークル 11)

○参加サークル 25団体

○延入場者数 3,141人

松林分館利用者交流会

利用者相互の交流、館との連絡調整などのために実施した。

期 日 昭和62年9月5日(土)

会 場 松林分館

参加者 15人

内 容 各サークルの活動報告、公民館運営審議会の報告、松林分館事業計画、運営について、他。

総 括 今年は1日しか開くことができなかった。なんとかもう少し多く、定例的にしていければよいと考えている。

利用者相互の交流もリーダー同士はかなりすすんできてはいるが、さらにその輪をひろげていきたい。また、夜間利用者のアプローチも忘れてはなるまい。

松林ホームシアター

主に子どもたちに、すぐれた映像文化、深い芸術性にふれる機会として実施した。

月 日	内 容	上 映 時 間	参加人数
4. 25	ミリ子は負けない	午後2時、3時30分	60人
5. 23	チャップリンの黄金狂時代	午後7時30分	35人
24	〃	午前10時	10人
6. 27	ひょっこりひょうたん島	午前11時、午後5時	60人
7. 18	わんぱく戦争	午後2時、7時30分	60人

月 日	内 容	上 映 時 間	参加人数
8. 13	シネマフェスティバル For Peace-		13 人
14	↓ (別掲)		54 人
15			28 人
9. 18	はっぱのゆりかご、めだかのたまご	午後 2 時	28 人
19	の育て方 他。	午前 11 時、午後 7 時 30 分	26 人
10. 24	セロ弾きのゴーシュ	午後 2 時	50 人
25	〃	午前 10 時 30 分	60 人
11. 20	テンプルちゃんの小公女	午後 2 時	20 人
21	〃	〃	40 人
22	〃	午前 10 時 30 分	30 人
12. 12	がんばれスヌーピー	午前 11 時、午後 1 時 30 分	80 人
13	〃	午後 1 時 30 分	20 人
1. 15	青い鳥、おかあさんの木	午前 11 時、午後 2 時	50 人
2. 27	二十四の瞳	午後 2 時	40 人
28	〃	〃	30 人
3. 26	ザ・マジックショー	午後 2 時	50 人

松林シネマフェスティバル — for Peace —

月 日	上映時間	内 容
8. 13	午前 10 時 午後 2 時 午後 7 時 30 分	ヒロシマのうた、ピカドン、トビウオのぼうやはびょうきです 子どもたちの昭和史 第 1 部 地下水道
8. 14	午前 10 時 午後 2 時 午後 7 時 30 分	おこりじぞう、おかあちゃんごめんね 子どもたちの昭和史 第 2 部 灯は生きていた
8. 15	午前 10 時 午後 2 時 午後 7 時 30 分	象のハナ子 チャップリンの兵隊さん 大いなる幻影

松林ひだまりハイキング『ヨコスズ尾根』

冬枯れの穏やかな一日、奥多摩の山歩きを楽しむ

期 日 昭和63年3月13日(日)

場 所 奥多摩、ヨコスズ尾根～三ツドッケ(天目山)

参加者 15人

講 師 佐久間直冬氏、佐藤克年氏

コース 福生駅^{電車} 奥多摩駅^{バス} 東日原…………… 滝入ノ峰 …………… 一杯水避難小屋……………三ツドッケ(天目山)…………… 一杯水避難小屋(昼食)…………… 滝入ノ峰……………東日原^{バス} 奥多摩駅^{電車} 福生駅

総 括 前週に雪が降ったため、ところどころに雪が少し残っていたが、天気にも恵まれ、ひだまりハイキングの名前にふさわしい山歩きができた。

しかし、体力的な面から三ツドッケ(天目山)山頂に登れなかった人が出たのは残念であった。

松林木工教室『道具仕立て』

道具仕立て一道具の直し、使い方等—を中心に小作品の製作を通し、実践的に木工の基礎を学んでいく。

期 間 昭和63年2月6日(土)～3月31日(木)

会 場 松林分館

参加者 8人×10回=80人

月 日	内 容	講 師
2. 6	教室の説明、自己紹介他、刃物の基準づくり(裏押し)、研ぎ	秋池 俊彦氏 (職業訓練校)
13	刃物の基準づくり(裏押し)、研ぎ。鉋台の仕立て	
20	砥石台の製作(自分の家で使うため)	
27	木取り、寸法ぎめ、鋸、鉋、ノミ等の使い方	
3. 5	キッチンロールペーパーホルダーの製作	
12	木取り、寸法ぎめ、基準面づくり、正確に直角をだす	
19	〃 〃	
26	墨付け、組み手の実際	
30	角材から丸棒をつくる	
31	面取り、組み立て	

総 括 買ってきてしまえば、手軽でしかも安上がりである。けれども、手作りを楽しむ、また、木工の技術を学ぶということが、参加者の中に定着しているようだ。工夫し、創作することの大事さをもっと多くの人達に広げていきたいと思う。

講座『くらしと健康を考える』 —講義とエアロビクス実践—

世は健康ブーム、グルメブーム、飽食の時代とも言われています。その中で、『食』と『健康』とのかかわりは、一体どうあるべきか。食と健康についての講義とエアロビクスの実践を通し、私たちの健康を考えていく。

期 間 昭和63年2月10日(水)～3月30日(水) 全10回

会 場 松林分館

参加者 17人×10回=170人

月 日	内 容	講 師
2. 10(水)	オリエンテーション、実践①	久保山佳奈氏(インストラクター)
17 "	実践②	" "
24 "	実践③	" "
3. 2 "	講義①病気に罹らないための栄養	福島 要一氏(評論家)
5(土)	実技④	久保山佳奈氏(インストラクター)
9(水)	講義②病気に罹らないための栄養	福島 要一氏(評論家)
12(土)	実技⑤	久保山佳奈氏(インストラクター)
16(水)	実技⑥	" "
23 "	実技⑦	" "
30 "	実技⑧	" "

総 括 くらしと健康と銘打った講座であったが、担当者の力量不足もありエアロビクスの実践が中心になってしまった。講義と実技の配分をもう少し工夫すべきであった。参加者は講義をうけ、汗を流し、充実した2時間を過ごしたようだが、実際の生活の場面で講義がどのように生かされていったか確認できなかった。

高齢化社会を考える

今日、国際化社会、高度情報化社会、高齢化社会の到来が言われ、特に、高齢化社会の問題は、地域課題としても大事な問題になってきています。人生わずか50年と言われる時代から平均寿命80才の時代を迎え、さまざまな問題が出て来ました。老後の生活設計の問題、ひとり暮らしの老人の問題、寝たきり老人の介護の問題、家族関係の問題をふくめて、医療、福祉、暮らしの問題がどうなっていくのか、高齢化社会とはどういうことなのかを改めて考える機会とした。

期 間 昭和63年3月4日～25日 午前10時～12時 全4回

会 場 松林分館

参加者 6人(5)×4=24人 ()は女性

月 日	テ ー マ	講 師
3. 4	高齢化社会を考える、現状を出し合おう	担 当 職 員 富永 静枝 先生 (白梅女子短期大学教授)
11	高齢化社会とは	
17	家族はどんな変化をしていくのか	
25	高齢化社会の諸政策	

市民大学歴史＝戦後史を学ぶ＝

戦後40年を経て、日本は経済的繁栄を基礎に、今や、世界の経済大国といわれ、国際社会で、それなりに重要な位置を占めるようになった。そうしたことの中で、21世紀に向けて、「国際化」「高度情報社会」「高齢化社会」が課題になり、さまざまな模索が様々に展開し始めている。しかし、一方では、日本の「軍事大国化」を危惧するアジアの声も高くなっている。また、「戦後民主主義」の空洞化がいわれ、その危機もいわれている今日の状況の中で、改めて戦後の日本の歩みを、政治や経済の動きを通して考えていく場とした。

期 間 昭和62年10月30日～63年3月4日

午後2時～4時 全14回

会 場 松林分館

参加者 10人(8)×14=140人 ()内は女性

月 日	テ ー マ	講 師
10. 30	オリエンテーション	担 当 職 員
11. 6	日本の敗戦をどのように迎えたのか	川村 善二郎氏 (東京経済大学講師)
13	講義を受けて	担 当 職 員
20	占領政策と民主化をめぐって(1)	川村 善二郎氏
27	“ “ (2)	“
12. 4	明治憲法から日本国憲法へ(現憲法はどのように生れたか)	“
11	講義を受けて	担 当 職 員
18	対日平和条約と日米安保条約	川村 善二郎氏
1. 22	“	“
29	日米の相互協力及び相互安全保障	“
2. 5	沖縄県の祖国復帰への道	“
19	高度経済成長と地域開発	“
26	市民の時代の中で＝四大公害裁判から＝	“
3. 4	国際化の時代＝前川レポートを読む＝	“

総 括 戦後の体験も、年代によってかなりへだたりがある。参加者の年齢差は実に39才もあった。戦後の自己体験をどう共有していくのか、特に、敗戦後の混乱と復興への道(1945～50年)を、どういう視点で共有し合っていくのが重要な気がした。今回、講義の後、参加者がその時代にどう生きていたのかを語りあってもらった。それは、戦後の民衆がどういう過ごし方をし、政策を受けとめて来たかを共有する場になったばかりか、戦後の福生市における一証言としても、大事な記録となっている。

PTA入門講座

PTAにはじめてかかわる人、はじめて役員になったという人たちを対象にPTAの歴史と役割について理解する機会とした。

期 間 昭和62年5月28日～6月25日 午後2時～4時 全5回

会 場 松林分館

参加者 15人(1)×5回＝75人 ()内は男性

月 日	テ ー マ	講 師
5. 28	いま、PTAの課題はなにかを話し合おう	担 当 職 員
6. 4	PTAの歴史	服部 親照 氏 (元都社教主事)
11	PTAはいまなぜ大切なのか	藤 田 博氏
18	みんなが主役のPTAをどうつくるか＝活動のポイント	(中央大学講師)
25	読まれる広報をつくるには	森 恵 子氏 (全 P 研)

教育講座 「中学生と進路」

ここ10数年来、校内暴力、登校拒否、いじめ、等ふくめて中学生や中学校の問題が社会問題になって来た。そうした、さまざまな問題をかかえる中学生、中学校という時期の中で、特に親も子も悩む“進路”を考える機会とした。

期 間 10月29日～11月26日 午後7時30分～9時30分

会 場 松林分館

参加者 6人×5回＝30人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 26	中学生の現状	いま中学生はどんな生活をしているのか 現場の先生から報告してもらう。	田村 光男氏 (瑞穂中学教諭)
11. 5	中学生の心理	子どもから青年に向けて、精神的にも肉体的にも成長する中学生の心理を考える。	林 友三郎氏
12	中学で学ぶことの意味	中学校は単なる高校への通過点ではないはず、子供たちは中学でなにを学び、どんな力をつけて行くのかを考える。	「中学生時代」 著者
19	中学生の進路	進路とは何か。進路を考える視点を明らかにする。	後藤重三郎氏 「進路を開くために」著者
26	高校とは	高校生という青年の心理的特徴を考えながら、今日の高等学校、高校生のかかえる現実の問題を考えて行く。	石井 杉生氏 (五日市高校教諭)

識字学級＝ことばの会＝

今日、文字が書けなかったり、読めなかったりする人がいると言うと、多くの人はまさかという顔をする。確かに、教育が普及、徹底した今日では、読み書きできるということは当たり前になっていますが、字が書けなかったり、読めなかったというケースが稀でないということをケース・ワーカーは指摘している。

考えてみると、戦前、まともに学校にいけなかった人々、あるいは戦時中にむりやり日本に連れてこられた中国や朝鮮の人々、また、戦後の混乱期に学校に行けなかったという人もいます。そして、学校に行ったけど、十分に教育を受ける機会にめぐまれなかったという人もいます。

文字が書けるということが一般化した今日では、文字が書けなかったり、読めないということとは勿論、人に話すことはない。と言って、学ぶ場所がどこにでもあるというわけではない。福生の場合、ほとんどが、ケース・ワーカーの個人的努力にゆだねられてきたというのが現状である。

当然、文字が書けない、読めないという生活をしてきた人々にとっては、実際の生活は非常に困難をともなったはずである。学齢の子を持つ親ならば、なおさら、子供との関係、学校との関係をふくめて、文字が読めない書けないということが、大変な課題になる。

今日、文字が読めたり、書けたりできないと、社会に通用しないわけで、本人にとっても、生活そのものの問題になってくるし、生活そのものがきわめて狭められていることも事実である。これはもはや基本的人権に関わる問題である。

公的社会教育は市民の実際生活に即する学習をどう保障していけるかが目的である。文字を学ぶ機会を十分に持てなかった人々が、実際生活に即して、文字を学ぶということは、きわめて重要で、生きていくために必要な力である。第4回ユネスコ国際成人教育会議における「学習権宣言」(1985年3月)では、「学習権とは、読み書きの権利であり、問い続け、深く考える権利であり、……自分自身の世界を読み取り、歴史をつづる権利であり、あらゆる教育の手だてを得る権利であり、個人的、集団的力量を発達させる権利である」と書いているが、読み書きできる権利は、学習権のうち第一番目に保障されなければならない権利である。その読み書きの権利を保障する学習は公民館にとって重要な、そして、最急にとりあげる課題である。また、人権教育には二つの側面がある。1つは人権についての理解を深めること、2つには、基本的人権を侵かされているものが、それを回復していくために、どれだけ具体的な回復への手だてを行っていただけるのか、その保障と具体的な学習機会を用意するという、両面がなければならない。そういう場の1つとして、識字学級を開催した。

期 間 昭和62年7月1日～63年3月28日 午後1時～3時30分

会 場 松林分館

参加者 3人×20回＝60人

月 日	内 容	講 師
7. 1	担当者、講師、ケース・ワーカー、打ち合わせ	担 当 職 員
8	受講者、講師、ケース・ワーカー、担当者話し合い	
15	読み書きの基礎、五十音図、教材「わたしのおいたち」	高崎 伊平氏 (元小学校校長)
22	(うえだまさこの作文「それでも私は生きていた」 東上高志 編	
29	文学教材「はぐるま」から “テレビと馬” 住井すえ 作	
8. 5	「ひとつの花」 著者 今西祐行	
12	“ ” “ ”	
19	「24才の中学生」 作者 高野雅夫(社会新書)	
26	“ごんぎつね” 著者 新美南吉	
9. 9	“ごんぎつね”文章の成りたち、文章作成(作文を書く)	
30	いまの自分を語る	
10. 7	“ ”	
2. 1	新参加者打ち合わせ、担当者、講師、ケースワーカー	担 当 職 員
8	日本語の成り立ち、五十音図、母音、子音、漢字の話し	高崎 伊平氏 (元小学校校長)
15	国語辞典の引き方、音素と音節、作品“早春”の読み	
22	国語辞典の引き方、画数、漢字の部首、“早春” 畑 正憲 著	
3. 7	「ごんぎつね」読み、解説	
14	「春の訪れ」 荒垣秀雄 著、解説	
27	「走れメロス」 太宰 治 著、解説	
4. 5	“ ” “ ”	

総 括 ケース・ワーカーの協力のもとではじめて開催できた教室である。参加者自身が、多くの場合、働くことの権利をうばわれている。その権利保障を同時に考えて行かないとむずかしい。今回こうした形にしろ、福祉のケース・ワーカーと連携がとれたことは大事なことであった。

ホビー教室「金工作」

生活者として、物をつくることは、非常な技術と技能が要求される。日常の生活上の小物を金工作を通して作る機会とした。

期 間 昭和62年6月24日～7月22日
午後7時30分～9時30分 全5回

会 場 松林分館

参加者 10人(9)×5回=50人

月 日	内 容	講 師
6. 24	作品の図案作成、ローづけの基本	石 橋 初 子 氏 (彫金作家)
7. 1	作品製作 ローづけ	
8	〃	
15	〃	
22	〃	

松林保育室交流会

松林分館の保育室を利用している共同保育サークル情報交流の場とした。

期 間 昭和62年5月22日～63年2月26日 午前10時～12時 全8回

会 場 松林分館

参加者 15人×8回=120人

月 日	テ ー マ
5. 22	保育の現状、共に保つことの意味を考える
6. 26	共同保育の意味
7. 10	子育てについて
9. 17	利用者サークルの調整について
10. 30	保育室の利用について、他、連絡
11. 16	〃 〃
12. 6	保育室の清掃
2. 26	保育室交流会について、学習会について

サンデーハイキングクラブ

中高年を中心にハイキング熱が高まっているが、一人のリーダーについて歩くパターンがほとんどのようだ。しかし、これでは事故が起きたときに各自が対応できない。そこで、一人ひとりが地図を読む事やコンパスを使うことなど、基本的な力を獲得するために開いた。

期 間 昭和62年6月24日(水)～9月6日(日)

会 場 白梅会館・滝山丘陵

参加者 25人×8回＝120人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 24	オリエンテーション	日帰りハイキングの用具の説明など	佐久間直冬氏
7. 1	事故に対応する力	事故の対応方法を救急隊員に聞く	消防署職員
7. 8	地図とコンパス	磁北線の意味やコンパスの説明	職 員
7. 12	地図とコンパスの実践	滝山で実践練習	職 員
7. 15	日常のトレーニング	日常トレーニングの具体的説明	体育館職員
7. 22	コースの設定や選定	コース選定のノウハウを聞く	山崎順一氏
7. 26	滝山丘陵歩き	滝山の地形を見ながら歩く	雨天中止
7. 29	夏山計画	反省とこれからの計画作り	職 員
9. 6	滝山丘陵歩き	7月に中止になった分の実践	職 員

総 括 昨年に続いて開いた教室だったが、内容的にはじっくり基本的なことをマスターしようと考えていた。参加者の中には、この教室が終わったら誰に連れていってもらえるのかしら、と考えている人が多かった。

基本的なことを学んでも、それを一人でも生かしていこうという心構えが無いと、なかなか身につかないものと思った。

私たちのまちを考える

「住民にとって豊かで暮らしやすいまちづくり」を自治体が目指していることは分かっているが、具体的に住民は何を要求し行動しているのでしょうか？誰かが豊かで暮らしやすいまちを作ってくれるのを待っているだけでいいのでしょうか。

今回のこの講座では、住民として具体的に出来ることは何なのかを中心に考え、以下のよう内容で開いた。

期 間 昭和62年10月28日(水)～12月9日(水)

会 場 公民館白梅分館・市内

参加者 15人×8回＝120人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 28	オリエンテーション	自己紹介や福生市の現状などを語り合う	井原満明氏
11. 5	市民参加のまちづくり	市民参加の意味・都内での実践例を聞く	
11. 8	市内ウォッチング	町並みを再発見しようと熊川地区を歩く	
11. 11	福生市の現状と将来1	都市計画の現状と将来を聞く	関口 清氏
11. 18	うるおいのあるまちづくり	美的感覚でまちを見るとどうなる？	
11. 26	福生市の現状と将来2	直面している行政課題とこれからの話題	野沢久人氏
12. 2	住みよい環境って？	生物的な視点からまちづくりを考える	宮岡一雄氏
12. 9	私のアイデア集	参加者各自の「まちづくり」を話し合う	

総 括 参加した人の中で、「熊川地区に長く住んでいながら、初めて気が付いたことがあった」と話している人がいた。自分の住んでいるところは、案外客観的に見るとはしていない。今回の講座をきっかけに熊川地区のアメニティーマップを作ると面白いだろうねという声がでてきた。

自然観察会

市内を流れる多摩川を中心に、水性昆虫・昆虫・植物・野鳥を観察することを通して、私たちの生活と自然の関係を知る機会として実施した。

期 間 昭和62年5月17日(日)～63年3月13日(日) 全10回

会 場 市内河原・基地周辺の草原・狭山湖

参加者 合計 300人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 17	植物観察会	初夏の多摩川の植物を観察する	宮岡一雄氏
6. 21	水性昆虫観察会	水性昆虫を観察し、水質と生活の関係を知る	田中和明氏
9. 5	鳴く虫の観察会	草原で鳴く虫を観察する	栗原 仁氏
9. 27	植物観察会	秋の多摩川の植物の観察	宮岡一雄氏
11. 29	野鳥観察会	冬鳥の第一陣(カモ類)を多摩川で観察する	岡田紀夫氏 と栗原仁氏
2. 14	〃	冬の多摩川で観察できる野鳥の観察	
2. 21	〃	同 上	
2. 28	植物観察会	植物の冬芽を観察する	植物観察会
3. 6	野鳥観察会	冬の多摩川で観察できる野鳥の観察	は宮岡一雄氏
3. 13	〃	狭山湖で観察できる大型の水鳥を観察する	氏

総括 今年の観察会は天候にも恵まれ、充実した観察会になった。特に、野鳥観察会については、福生自然観察グループのスタッフが資料を作成し、充実した観察会になった。しかし、植物観察会やその他の観察会などについては、まだ資料を作れるだけの人材が不足していると思う。

白梅親子映画会

子ども達の日常生活圏の中にある公民館で、親子共にみることの出来る作品を提供し、映像を通しての楽しい時間を作ることを目的として実施した。

期 間 昭和62年6月20日～63年2月28日 全12回

会 場 公民館白梅分館

参加者 12回 440人

月 日	上 映 作 品	上映時間など	入場者
6. 20	ひょっこりひょうたん島	午後 2:30～1回	70
6. 21	同 上	午前10:00～1回	30
7. 17	わんぱく戦争	午後 2:00～1回	15
9. 19	日本ザル母の愛・めだかの卵・はっぱのゆりかご	午後 2:00～1回	25
9. 20	同 上	午前10:00～1回	25
10. 24	セロひきのゴーシュ	午後 3:30～1回	50
10. 25	同 上	午後 2:00～1回	30
11. 21	テンプルちゃんの小公女	午後 3:00～1回	50
12. 12	がんばれスヌーピー	午後 3:30～1回	60
12. 13	同 上	午前10:30～1回	25
2. 27	二十四の瞳	午後 2:00～1回	40
2. 28	同上	午前10:00～1回	20

人形劇公演（白梅親子人形劇）

身近なところで、ほんものの人形劇にふれる機会としてプロの劇団（人形劇団カラバス）による公演を実施した。

日 時 昭和63年3月25日（金） 午後2時から

会 場 公民館白梅分館

参加者 70人

「第6回白梅会館利用者発表会」実行委員会

(1) 日頃の公民館活動の成果の発表とする。(2) 個々のグループが同一の目標に向かって活動することにより、交流・親睦を深める機会とする。(3) 公民館活動を地域に広め、熊川の学習・文化のひろば(祭典)となることを目標に、昭和62年5月を目処に、実行委員会を組織し、準備をすすめた。

(実施期日、会場、参加者は以下の表のとおり)

実施日時	内 容	参 加 者
昭和62年4月4日(土) 午後7:30~10:00	「フィナーレのひろば」企画・進行・プログラムづくり	6団体6人
4月13日(月) 午後7:30~10:00	「全体実行委員会」全企画の集約と分担	20団体20人
4月17日(金) 午後7:30~10:00	「演示のひろば」企画・進行・プログラムづくり	14団体14人
5月10日(日) 午後10:00~正午	「最終全体実行委員会」全企画確認・PR・当日向け準備作業	25団体30人
5月27日(水) 午後7:30~10:00	「反省会及び打ち上げ懇親会」	30団体30人

第6回白梅会館利用者発表会

5月23日(土)1日目

○展示のひろば「手芸・籐細工・新作囃し面と衣装・子ども絵画・生花・陶芸・レザーークラフト・パッチワークの作品展。サークル活動展」 午前10時~午後5時

(入場 約210人)

○茶 席 「久田流お点前」

午後1時~4時

(入場 約70人)

○親と子のひろば 映画上映「さくらんぼ坊や」

午後2時~4時

親子でたのしいゲームと工作

(入場 約50人)

5月24日(日)2日目

○展示のひろば「手芸・籐細工・新作囃し面と衣装・子ども絵画・生花・陶芸・レザーーク

ラフト・パッチワークの作品展。サークル活動展」 午前10時～午後4時
(入場 約320人)

○語らい茶屋 「世代を越えて、地域での子どもの育ちを考える」
午前10時～正午
(入場 約60人)

○演示のひろば 「民謡・詩吟・囃し・コーラス・民謡のひろば」
正午～午後3時30分
(入場 約320人)

○フィナーレのひろば「その場で楽しめるダンス・民謡・エアロビ体操・ゲーム・
合唱を！」 午後3時30分～4時30分
参加団体32団体 全入場者数約530人 (参加者数 約180人)

白梅利用者研修会

公民館白梅分館は、開館以来7年8カ月。現在約50のグループが活動し、文化活動に加えて、学習活動も増える状況にある。そこで、白梅分館が熊川地域での生活・文化形成やまちづくり場となるために、利用者の研修の機会として、以下のように実施した。

実施日 昭和63年3月9日(水) 午後7時30分～10時

会 場 白梅会館

参加者 白梅会館利用者 30人

実 施 日	内 容	講 師
3月9日(水) 午後7:30～10時	公民館の役割について 都市における公民館と学習・文化活動の広がり	小林 文人氏 (東京学芸大学教授)

* この研修会を機に、第7回白梅会館利用者発表会・実行委員会をスタートさせることとなる。

「第7回 白梅会館利用者発表会」実行委員会

前年の目標を更に深め、昭和63年5月実施を目処に、実行委員会を組織し、準備をすすめた。また、今年は学習・文化活動のひろばをイメージした白梅音頭をつくろうとの意気込みでスタートすることとなった。

(実施日時、会場、参加者数は以下の表のとおり)

実施日時	内 容	参 加 者
昭和63年3月17日 午後7:30~10時	これまでの積み上げ、昨年をふりかえり、今回 第7回の目標・計画、白梅音頭づくり打合せ	22団体25人
3月30日(水) 午後7:30~10時	参加グループ確認・準備日程・当日タイムスケ ジュール・各ひろばの概要検討	25団体25人

以後の実行委員会は、次年度に継続して実施とする。

(7) 高 齢 者

やじきたハイキング

高齢者を対象としたハイキングで、ネーミングのとおり脚力にあった楽しい出歩きを第一の目的とした。

月 日	コ ー ス	講 師	参加人員
6. 15	御岳山一日の出山ー 吉野梅郷	吉野 チエ氏 吉原 寿子氏	25人
10. 12	高尾山一峰の薬師ー津久井湖		25人
12. 7	天覧山と高麗郷		25人
2. 8	弘沢の滝ー吉祥寺		25人

しらうめ熟年ひろば

都市化、各家族化とともに、当市も高齢化が進展している。退職後の生活・生き方、生活年齢的な位置での役割変化の中で、いかに高齢期を健康で生きがいある生活としていくかが求められている。そこで、これまでの生活経験をもとに、社会変化を見つめ、たえず自己を養い活かし、若い世代とともに地域生活を創造することが生きがいとなることにむける。加えて、ことしは地域課題・都市のこれからを視野に以下のように実施した。

期 間 昭和62年7月3日(金)~63年3月11日

午前10時~正午 全25回

会 場 白梅会館 ほか野外・見学

参加者 人生を唄おう会40人×8回+語らい総合活動30人×12回+老壮懇話会40人
×5回=880人

人生を唄おう会

回	月 日	内 容	備 考
1	7月17日(金)	人生をつづるなつかしい唄、今だれも	
2	7月31日	が歌う唄、私の思いでの曲、十八番の	合唱・ピアノ
3	8月21日	曲など参加者みんなでうたいあげる。	清水 文代氏
4	9月18日	・希望選曲で約10曲を全員のレパー	民謡・三味線
5	10月16日	トリー(コーラス・民謡)	富田 朝子氏
6	10月30日	・参加者一人づつ、毎回5人位が「思	
7	11月20日	い出の、好きな曲」を語らい、そし	
8	12月16日(水)	て唄う(みんなも声を合わせて)	*メドレーも作られる
*	12月18日(金)	忘年会 「うたうパーティ形式で」	

語らい総合活動

回	月 日	内 容	備 考
1	7月 3日(金)	オリエンテーション・自己紹介	話 し 合 い
2	7月10日	私達の人生のあゆみ そのⅠ	〃
3	8月 7日	〃 そのⅡ	〃
4	8月14日	〃 そのⅢ	〃
5	9月 4日	片倉自転車見学、製糸業の歴史	見 学 会
6	10月 2日	ふっさ我がまちよもやま話しⅠ	話 し 合 い
7	10月 9日	多摩の河原でバーベキュー	野 外 懇 親 会
8	11月 6日	“語らい茶屋”育児期の母子との交流	交 流
9	11月13日	ふっさ我がまちよもやま話しⅡ	話 し 合 い
10	12月11日	うたうパーティ忘年会企画 ほか	〃
11	12月18日	“うたうパーティ”忘年会	懇 親 会
12	2月19日	市内・基地内バス見学会	市 バ ス

老壮懇話会

回	月 日	内 容	備 考
1	7月24日(金)	福生の歴史・民俗・文化財・まちの話 題について	話題提供 メンバーの中から
2	8月28日	人間のふるさと自然をさぐる・緑ある まちづくりについて	宮岡 一雄氏 (明治大学教授)
3	9月25日	高齢期の生活・生きがいを築くために	原田 正二氏 (前大正大学教授)
4	10月23日	わがまち福生の動向と施策について	話題提供 田村福生市長
5	3月11日	21世紀への大都市像・高齢者の存在 とこれからの役割	松田 雄孝氏 (大東学園専門学校)

以上3コース連続実施とし、終了後は“自主熟年ひろば”として活動をおこなっている。

6. 市民会館主催事業

1. 目 的

会館は、市民の文化・芸術の拠点として、また豊かな人間性をはぐくむ場として、会館のもつ機能、設備を内容面で市民に還元してゆくことを目的としている。

その一環として、市民会館主催事業は、市民によりよい鑑賞の機会を提供し、生活の潤い、いこい、また、文化、芸術の創造の契機となるよう行われる。それは、市民が鑑賞者として、“素晴らしいもの”を愛する心をいつまでも持ち続け、会館が主催者として、市民の求める“素晴らしいもの”を十分に検討し、それに対応するという相互のより高い調和を目的とし、開催する。

2. 目 標

ポップス、落語、寄席、映画等、幅広いジャンルからの企画により、多くの市民の参加を目標としている。

また、主催事業の内容の充実とともに、催しを全市民に周知するよう宣伝活動の徹底をこころがける。

公 演 名	実 施 日	会 場	入 場 料 金	発 売 人 数	出 演 者
落語鑑賞会	昭和62年 6月20日(土)	小ホール	自由 1,000円	105人	三遊亭 金馬 " 好楽 好太郎
ミュージカル ジーザスクライ ストスーパース ター	昭和62年 10月25日(日)	大ホール	指定 4,000円	617人	劇 団 四 季
杏里コンサート	昭和62年 12月12日(土)	大ホール	指定 S 3,000円 A 2,500円	1,186人	杏 里
初笑い福生寄席	昭和63年 1月10日(日)	大ホール	指定 1,000円	960人	春風亭 柳昇 牧 伸二 松旭斎すみえ セントルイス 三遊亭 竹楽

市 民 名 画 劇 場

上 映 作 品	上 映 日	上 映 回 数 及 び 入 場 者
バック・トゥ・ザ・フューチャー	5月30日(土)	午後・夜間 2回 520人
ナチュラル	7月11日(土)	午後・夜間 2回 218人
ポリスアカデミー	9月26日(土)	午後・夜間 2回 183人
男はつらいよ・寅次郎子守唄	11月 7日(土)	午後・夜間 2回 127人
ゲーニーズ	12月26日(土)	午後・夜間 2回 507人
プレイス・イン・ザ・ハート	1月30日(土)	午後・夜間 2回 152人
ベスト・キッド	3月26日(土)	午後・夜間 2回 102人

いずれも市民会館小ホール